

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	補充兵手牒、帝国在郷軍人会会員徽章	寸法(mm)	130×85、26×18
解説	<p>甲種合格の内、徴兵された者を除き、残りは補充兵としてその心得等が記載された補充兵手帳を持たされ、既に兵役を終えた人々と共に在郷軍人に組織されました。彼等は兵力不足に応じ召集令状(赤紙)により、軍隊に狩り出されました。昭和20年(1945年)には徴兵検査を受けた人のうち現役兵として徴集された人の割合は、90%にも達し、働き盛りの男子はほとんど兵士として戦場などに送られました。</p>		

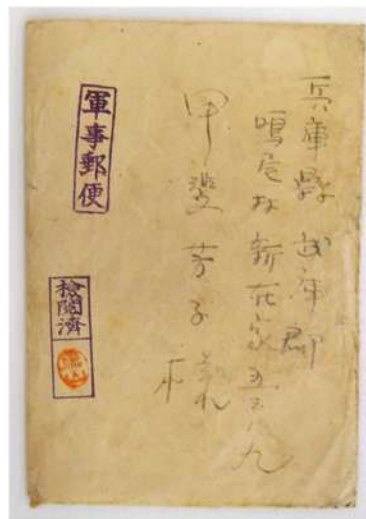


資料名	第一補充兵証書	寸法(mm)	180×125
解説	<p>明治6年(1873年)、国民皆兵をめざす徴兵令が發布され、満20歳の成年男子に兵役の義務が課せられました。陸軍では、徴兵検査の甲種・乙種合格者の中で、指名を受けた者は各連隊に入隊し、召集されなかった者は、現役兵に欠員が生じたときの第一補充兵役が課せられました。</p> <p>この証書は、昭和18年(1943年)9月4日付で神戸連隊区(現たいてい)の第一補充兵に任ずる旨、裏面には心構えや兵役に関する規則・手続き、それに違反した場合の罰則などが記載されています。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	奉公袋 ほうこうぶくろ	寸法(mm)	350×200
解説	<p>この袋は陸軍において入営及び戦地に赴くとき、必需品を入れていった袋で、裏に軍隊手牒、勲章、記章や召集及び点呼令状、その他貯金通帳など応召準備、応召のために必要と認めるもの等の収容物が記載されています。このほかに遺髪、爪袋、遺言書なども収められました。在郷軍人はこの袋を常に準備して、いつでも召集により戦争に行けるよう、意識を高めていたのです。</p>		



資料名	軍事郵便はがき ぐんじゆうびん	寸法(mm)	144×98
解説	<p>出征や入営した兵士が、入営先や戦地から郷里にいる肉親に出した便りです。検閲済みの朱印があるように投函前に内容が軍によってチェックされたため、軍隊内のことは軍事機密に属するとして記述は許されず、自身の健康や肉親の安否を気遣った内容となっています。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)

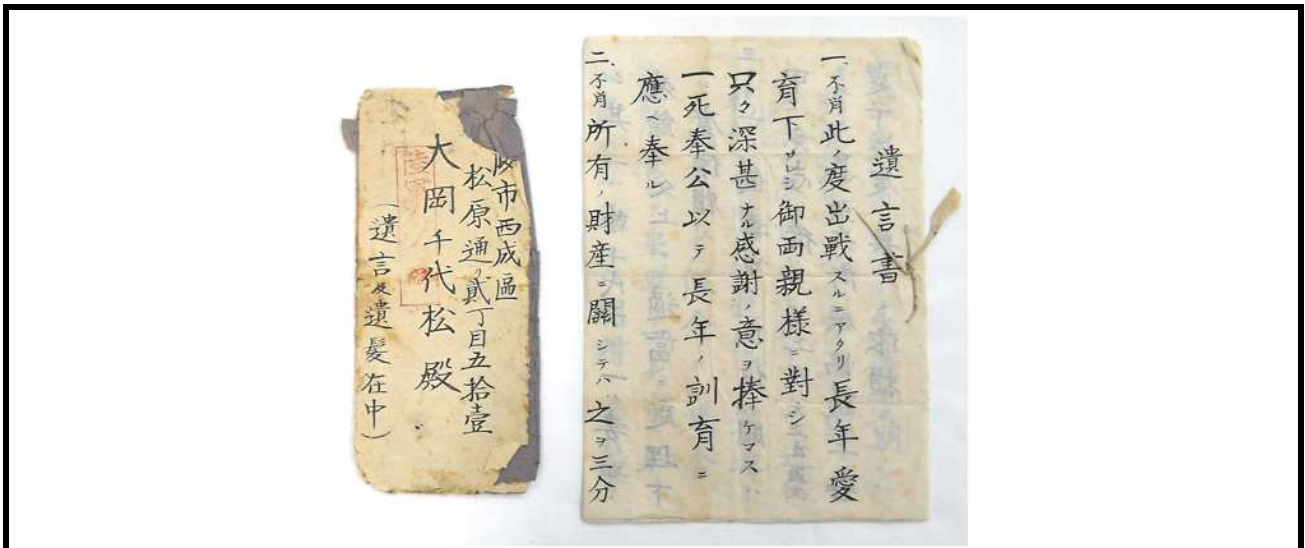


資料名	慰問袋 <small>いもんぶくろ</small>	寸法 (mm)	350 × 230
解説	<p>慰問袋は、戦地の兵士に内地の家族、親戚、知人等が慰問品を入れて送る袋で、中身は日用品、菓子類、缶詰等の食料品、<small>たばこ</small>煙草等の嗜好品、写真、お守り等、戦地の兵士を思う気持ちが込められていました。</p>		

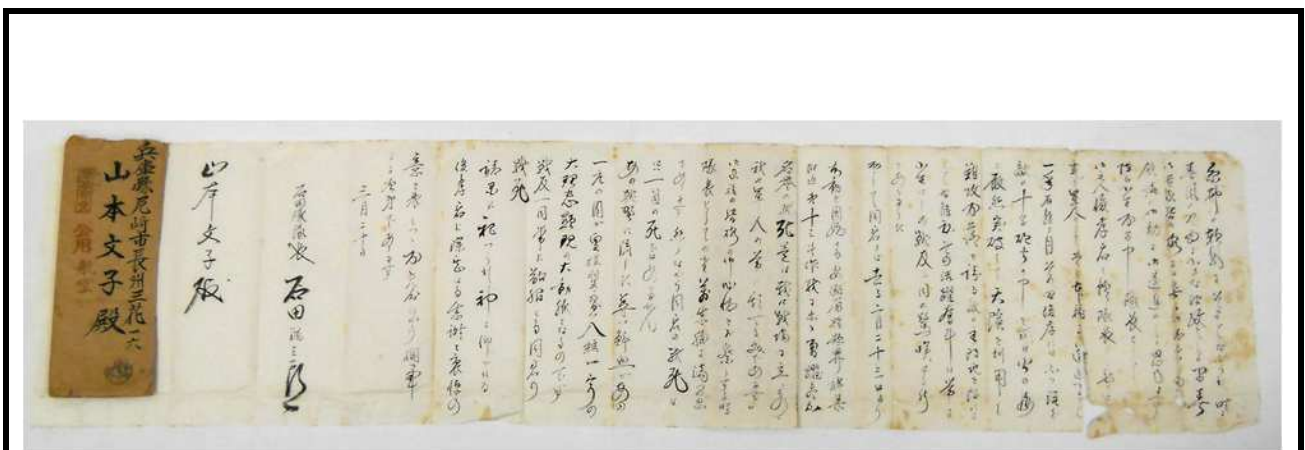


資料名	短冊 <small>たんざく</small>	寸法 (mm)	365 × 60
解説	<p>戦地における兵士の、郷里をそして家族を思う心の強さを表しています。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	遺書	寸法(mm)	200×80、240×168
解説	<p>戦場で死を覚悟して書く場合もありましたが、多くの方は、出征を前にして書きました。その場合、遺骨が帰らぬことも見越して、爪や毛髪を添えました。</p>		

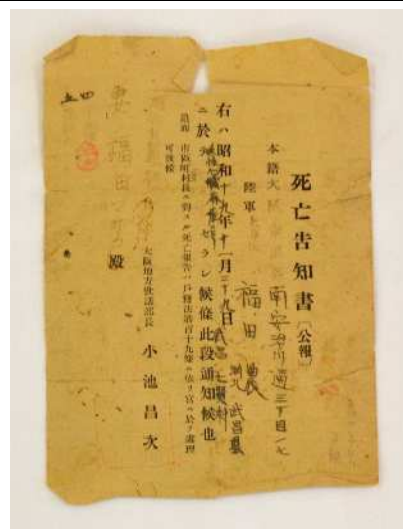


資料名	弔意状	寸法(mm)	260×1420
解説	<p>日中戦争の頃は、戦死者に対して小隊長、中隊長などが心のこもった弔意を表していましたが、戦争が激化するにつれ、そうした余裕も失われていきました。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	戦病死通知	寸法(mm)	195×110
解説	<p>戦地において戦闘や病気によって死亡した時、このような形で通知されました。太平洋戦争の激戦地での死亡は遺骨もなく、白木の箱のみといった形で返された場合もありました。無事で帰って欲しいと願っていた家族は、受け取った時の思いはどうであったでしょうか。</p>		



資料名	死亡告知書	寸法(mm)	170×115
解説	<p>中国の戦地において、戦闘ではなく急性心臓麻痺によって死亡(戦病死)された旨の通知書です。このような通知書を受け取られた家族の方の思いはどうであったでしょうか。</p>		



C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	ぐんぼう 軍帽	寸法 (mm)	R = 580
-----	------------	---------	---------



資料名	ぐんぷく 軍服・ズボン	寸法 (mm)	740×420、950×400
-----	----------------	---------	-----------------

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	鉄カブト	寸法 (mm)	140 × 255
-----	------	---------	-----------



資料名	軍靴	寸法 (mm)	275 × 150
-----	----	---------	-----------

解説	<p>軍人が着用した革靴。「軍靴の響き」などの言葉で軍人の勇猛な姿を彷彿させ、国民に好戦的な精神を植え付ける役割も持たせました。</p>		
----	--	--	--

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	軍用長靴 <small>ぐんようちやうか</small>	寸法 (mm)	380 × 280
-----	------------------------------	---------	-----------



資料名	革脚絆 <small>かわきやはん</small>	寸法 (mm)	310 × 110
-----	---------------------------	---------	-----------

解説	<p>革<small>かわ</small>で作られた脚絆<small>きやはん</small> (活動時にズボンの裾<small>すそ</small>の乱れを防止するため脛部分<small>すね</small>に巻かれる物)で、軍装<small>ぐんそう</small>の一部として、また乗馬<small>じやうば</small>の際にも使用されました。</p>		
----	---	--	--



C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	ゲートル	寸法(mm)	L = 2340 × 90
解説	<p>軍隊で兵士が着用したのみならず、国内では軍事教練や勤労奉仕などの作業に従事するとき、中学生以上の男子も着用しました。</p>		



資料名	巻軸帯	寸法(mm)	55 × 60 × 20
解説	<p>この「巻軸帯」は、戦時中に旧日本陸軍騎兵隊（以下「旧」省略）が使用した軍馬用の包帯で、外装の印字によると管理が「日本陸軍獣医資材本廠」、製造が「株式会社山本善弘商店」、製造年月が「昭和17年9月」と読み取れます。</p> <p>*日本陸軍獣医資材本廠 陸軍で使用する獣医用の材料や蹄鉄（馬のひづめに装着する鉄具）などの製造、購買、管理、修理、支給、交換、試験などを行う陸軍省管轄の部署</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	認識票	寸法(mm)	45×33×1
解説	<p>認識票とは、軍人が身につける名前や部隊番号などを刻んだ札のことで、戦死時の身元確認のため、軍服や帯に結びつけました。旧日本陸軍では、日清戦争が始まった明治27年(1894年)に制式化しました。海軍は、一部の陸戦隊のみで使用されました。</p> <p>この認識票は、縦45ミリ、幅33ミリ、厚さ1ミリの黄銅製小判型メタルで、部隊番号及び中隊番号の刻印が見られます。</p> <p>*黄銅(真鍮) 銅と亜鉛の合金</p>		



資料名	飯盒	寸法(mm)	150×180×105
解説	<p>陸軍製式の飯盒は、一度に二食分四合の米を炊飯でき、副食の容器に利用される中蓋(掛子という)は米の計量カップにもなり、すりきり一杯でちょうど一食分二合が量れます。この掛子は日本独自のアイデアらしく、他国の飯盒にはあまり見られません。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	水筒 <small>すいとう</small>	寸法 (mm)	200×130
-----	---------------------------	---------	---------

C. 戦場の兵士(関連資料)

			
資料名	サーベル	寸法 (mm)	L=950
解 説	<p>明治より昭和初期まで使用されていた軍刀。きらびやかなニッケルメッキの鞘です。刀身は細身で元から刃が付いていなく、柄も片手握りの純サーベル型です。本身軍刀剣類とは指向が異なり、内地での常勤時や演習、正装時等に着用されていました。</p>		

			
資料名	三十年式銃剣	寸法 (mm)	L=525
解 説	<p>突撃・白兵戦時に小銃に装着する刺突用だが、日本刀を模した片刃。明治30年（1897年）から昭和20年（1945年）まで使用されました。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	薬莖・弾盒 (弾入れ)	寸法 (mm)	L = 76.5、90 × 110
解説	<p>薬莖は、火薬の保護ケースで、銃弾とのセットが実包。旧日本軍が日露戦争後に開発、昭和20年（1945年）まで使用されました（38式実包は首径7.45mm、リム径12.1mm、薬莖長51mm、全長76.5mm。弾道安定性が良く射距離400mで8mmの鉄板を貫通）。</p> <p>歩兵は弾盒（実包30発入り）を左右前後に計4個・120発を携帯しました。</p>		



資料名	小銃の銃床	寸法 (mm)	105 × 355 × 50
解説	<p>小銃は、一般的に弾丸が通る円筒状の銃身（鋼製）と、その銃身を装着する銃床（木製）部分からなり、旧日本軍では歩兵が地上戦で使用される主力兵器でした。また、銃床は弾丸発射時の照準を安定させ、肩への衝撃を抑える役割があり、銃の軽量化やバランスなどを考慮し、内部が空洞のものも見られます。</p>		



C. 戦場の兵士(関連資料)

			
資料名	航空時計	寸法(mm)	L = 300
解説	<p>この時計は、太平洋戦争（昭和16～20年）中、主に旧日本海軍航空隊の操縦士が使用した軍用航空時計です。</p> <p>航空時計は、目標物のない海洋で太陽と水平線の角度から位置を測定（天測）するもので、針と文字盤には夜光塗料が塗られ、裏蓋には「空兵第4622号」と海軍のシンボル「錨」の刻印があり、当時の日本の優れた技術力を示した一品です。</p>		

			
資料名	軍陣枕	寸法(mm)	210×80
解説	<p>徴兵検査に合格して入隊すると、陸軍では2年間の厳しい軍隊生活が始まります。朝6時にラッパの合図で起床、身支度を整えて整列、点呼、諸伝達を受け、その後当番による掃除・配膳、そして全員揃っての朝食後には厳しい訓練や演習が待ちっていました。訓練後は入浴や隊内の売店での買い物。夕食後には軍装の整理、寝具の用意、点呼、自由時間、ラッパの合図で消灯して、1日が終わります。</p> <p>この枕は、兵営生活における寝具の1つで、袋から取り出して両端の板を折り曲げ、つかい棒を取り付けて使用します。</p> <p>*軍装（軍人が戦闘する時の服装や装備品のこと）</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)




資料名	背囊 はいのう	寸法(mm)	550×347
解説	兵士が身の回りの必要品をこの中にいれ、担いだものです。		



資料名	雑囊 ざつのおう	寸法(mm)	335×330
解説	兵士が携帯したかばんで、中には歯磨き、石鹸、カップ、手拭、裁縫道具等の日用品やたばこ、マッチ、携帯燃料、ナイフ、靴紐、軍手、軍足、乾パン等が入れられていました。		

C. 戦場の兵士(関連資料)

			
資料名	折り畳み式軍用防塵眼鏡	寸法(mm)	80×160 (革帯除く)
解説	<p>中国戦線では、ほとんど砂漠に近い大地に強い季節風が吹き、しばしば砂塵が舞い眼を傷める過酷な環境の下で、兵士達が行軍や戦闘などを行うため、防塵眼鏡はなくてはならない必需品でした。</p> <p>この眼鏡は、金属フレームに二つ折りのガラス、表裏がそれぞれ革製と布製の枠に曇り止めの穴、布製の帯という仕組みで、折り畳んで皮革製のケースに収め、革帯(バンド)に装着して携行します。</p>		

			
資料名	寄書日章旗	寸法(mm)	700×790
解説	<p>出征する人、戦地にいる人の武運長久を祈って、多くの人々が名前などの寄せ書きをしました。兵士の活躍を祈りつつも、無事を強く願っているものです。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)

			
資料名	軍用手票 (軍票)	寸法 (mm)	51×106、77×16、82×142 58×120、68×140、77×160
解 説	<p>軍用手票 (以下「軍票」) とは、政府が占領地域で、軍需物資の調達などを目的に発行した特殊紙幣のこと。明治27年(1894年)の日清戦争時に初めて発行され、その後も対外戦争の都度発行されました。</p> <p>資料上部は、昭和12年(1937年)に勃発した日中戦争時の軍票で、主に中国大陸で使用されました。</p> <p>資料下部は、昭和16年に開戦した太平洋戦争時の軍票で、現地の通貨単位と風景の図案化が特徴で、フィリピン(左・中)、ビルマ(右)で使用されました。</p> <p>また、本来は兌換が前提でしたが、現実には殆ど行われず、敗戦により「紙屑」となりました。</p> <p>*兌換：軍票を正式な通貨と引き換えること。</p>		

			
資料名	名刺	寸法 (mm)	85×48
解 説	<p>牧野少尉(当時)が、晩年に綴った自分史には、「昭和18年(1943年)12月に大阪第22部隊入隊、その約2週間後に茨城西筑波の滑空飛行第一戦隊(東部第117部隊)転属」、「翌年8月に少尉任官」とあり、当時の名刺だと思われます。</p> <p>*自分史「私の航空70年史」(牧野鐵五郎) 平成19年12月25日に86歳で出版</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



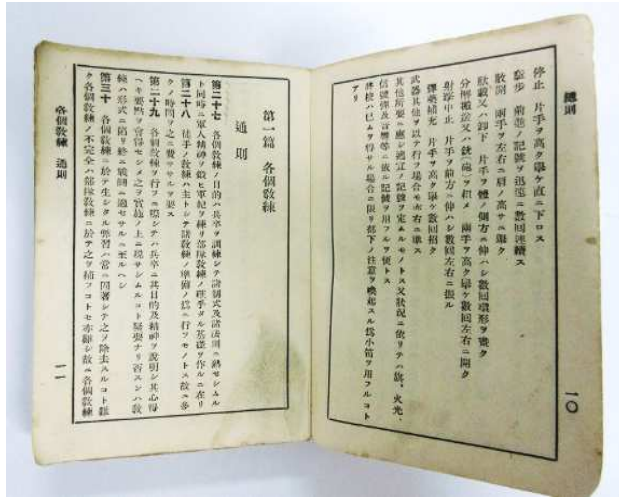
資料名	軍隊手帳	寸法(mm)	125×90
解説	<p>陸軍の下士官・兵に付与し、常に携帯が義務づけられ、その身分を証明した手帳。手帳の最初には「軍人勅諭」「勅語」「詔書類」「戦陣訓」などが記載されており、次いで兵隊の本籍地、住所、氏名、兵種、兵役、軍隊履歴が記入されるようになっています。特に外出外泊時、自らを証明するためにも必要でした。</p>		



資料名	従軍手帳	寸法(mm)	130×80
解説	<p>戦地で兵士が手帳として携行したもの。軍隊手帳のように必携ではなく、書く内容にも特に規定がなく、各人が体験した戦場の様子や家族への思いなどが綴られ、私的なメモ帳として使用されました。</p> <p>この手帳には、中国・朝鮮の地図、大祭祝日及び記念日、国旗の知識、カレンダーなどが印刷され、メモ欄には帰還に際しての挨拶文、慰問品の受取り日と送り主、郵便貯金通帳の番号などが残されています。</p> <p>*大祭祝日「宮中で大祭が行われる日など最も重要な祝日」</p> <p>*慰問品「出征兵士を慰めるために戦地に送った日用品や娯楽物」</p>		

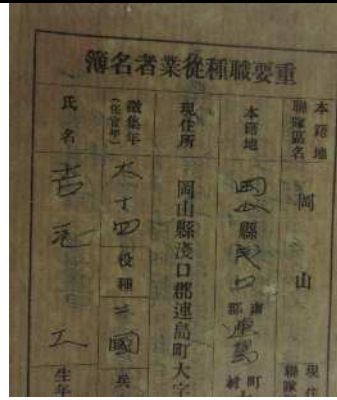


C. 戦場の兵士(関連資料)



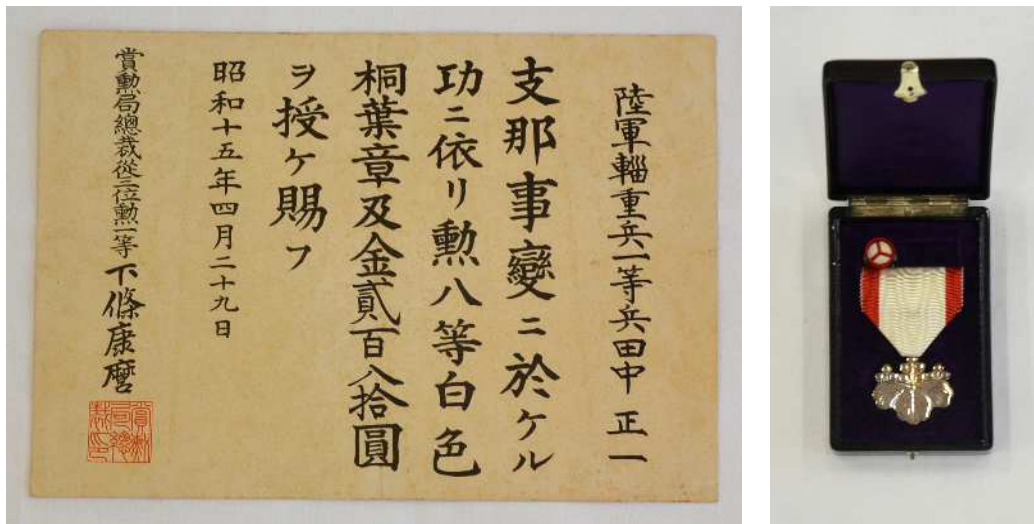
資料名	歩兵操典	寸法 (mm)	102×75
解説	<p>歩兵操典は、旧日本陸軍の主力であった歩兵の訓練と戦闘の準拠を示したマニュアル本で、天皇の裁可を経て軍令として施行されました。明治42年（1909年）、日本独自の体系に改訂され、これが以後の各操典でも原型になりました。</p>		
	<p>その特徴は、忠君愛国と必勝の信念を強調する精神主義で、これが「物質的威力ヲ凌駕シテ戦捷ヲ完ウシ得ル」としています。このような非科学的で独善的な思想が、兵士や国民に多くの犠牲を強いることになりました。</p> <p>*準拠：よりどころ又は標準としてそれに従うこと                      *凌駕：他のものをしのいでその上に出ること                      *戦捷：戦いに勝つこと                      *完（全）う：完全に果たす、成し遂げる</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	重要職種従業者名簿		120×80
解説	<p>この名簿（下半分滅失）によると、吉元工氏は大正14年（1925年）に本籍地の岡山連隊区で徴集、役種（兵役の区分）「二国」（第2国民兵役）と記載されています。この役種「第2国民兵役」は、一般的に体格及び健康上の理由で、徴兵検査で丙種（現役には適さないが兵役義務あり）と判定された者が、後方支援などに服していました。</p> <p>＊陸軍の役種（当時）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常備兵役（徴兵検査「甲種」・「乙種」で召集された者 20～27歳）             <ul style="list-style-type: none"> <li>[現役]（20～21歳）</li> <li>[予備役]（現役を終えた者 22～27歳）</li> </ul> </li> <li>・後備兵役（予備役を終えた者 27歳～37歳）</li> <li>・補充兵役（徴兵検査「甲種」・「乙種」で召集されなかった者 20～32歳）             <ul style="list-style-type: none"> <li>[第1補充兵役]（現役に欠員が生じたときの補充要員）</li> <li>[第2補充兵役]（戦時の要員）</li> </ul> </li> <li>・国民兵役（兵役義務のある男子全員 ～40歳）             <ul style="list-style-type: none"> <li>[第1国民兵役]（後備兵役・補充兵役を終えた者）</li> <li>[第2国民兵役]（徴兵検査「丙種」者他）</li> </ul> </li> </ul>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	勲八等白色桐葉章	寸法(mm)	210×295、85×37
解説	<p>明治8年(1875年)4月10日に制定された旭日章(勲章のひとつ)の中のひとつ。国家に対し功労がある者の内、功績の内容に着目し、顕著な功績を挙げた者に対して授与されました。制定時は、勲一等から勲八等まで八等級の序列があり、勲一等旭日大綬章を最高位とし、序列最下位が勲八等白色桐葉章でした。また、旭日章の授与は男子に限られていました。</p>		

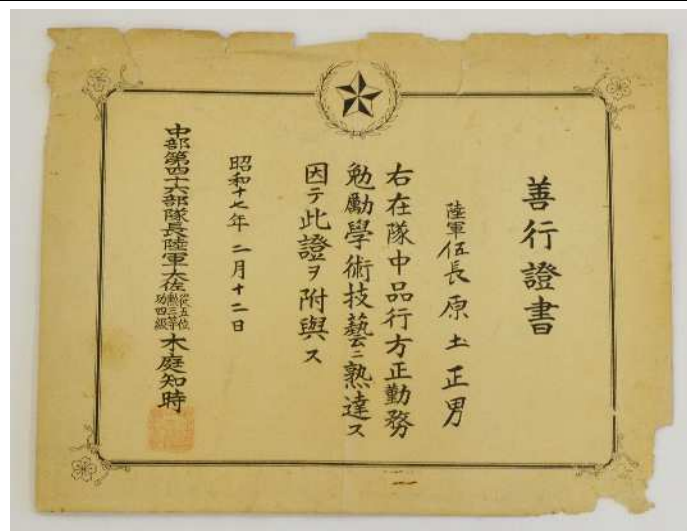


資料名	從軍記章証 勲章類	寸法(mm)	325×420、95×40
解説	<p>戦争に従事したことを示す徽章で、勲功賞状とともに与えられ、本人の名誉欲を高揚させ、戦争への意欲を持たせました。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)

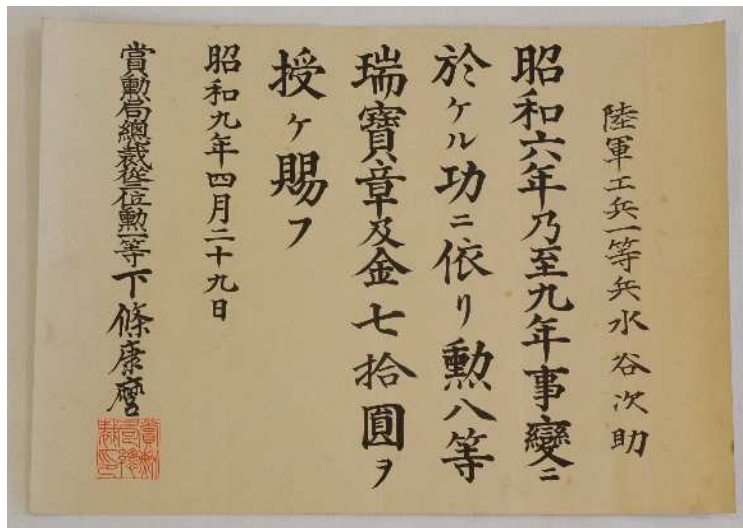


資料名	金鷄勲章	寸法(mm)	90×60
解説	<p>明治23年(1890年)制定の武功勲章。軍人の名誉心を競わせる軍功は、功一級から七級まで差異ありますが、実際には功労の等級は階級により決まり、兵士は七級、下士官・准士官は六級、高級仕官・将官は功三級を原則とし、功労金(戦死者は弔慰金)や年金も付きました。支那事変、太平洋戦争末期には戦死者優先で授与されました。</p>		



資料名	善行証書	寸法(mm)	240×300
解説	<p>軍隊において軍人の勤務年数とその成績により、山形の善行章が与えられました。これは軍服の右腕部分に縫い付けられ、最高五本まで与えられました。階級社会である軍隊において畏敬される存在でした。善行章を受章する際、その受章を証するこのような善行証書が授与されました。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	勲功賞状 <small>くんこうしょうじょう</small>	寸法(mm)	210×300
解説	戦争において手柄をたてた兵に与えられ、戦う意欲を更に向上させることをねらったものです。 <small>てがら</small> <small>いよく</small> <small>さ</small>		



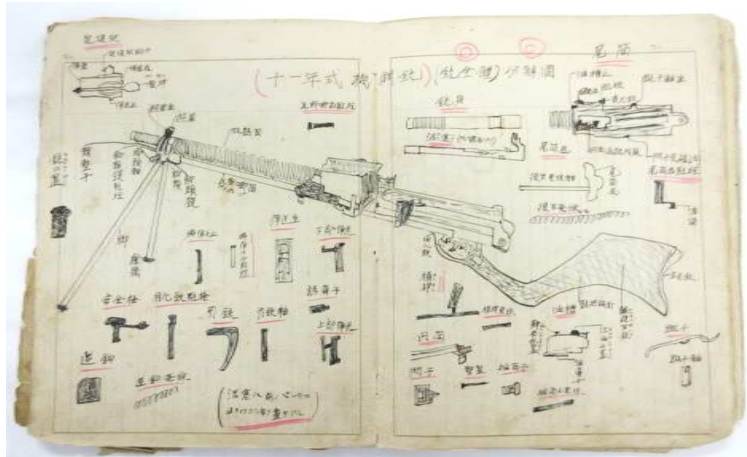
資料名	辞令 <small>じれい</small>	寸法(mm)	210×300
解説	戦争が激しくなると兵士の数が不足し、徴兵任期满了後も再召集されました。一部優秀な者は伍長(下士官)に任じられ、職業軍人となりました。 <small>ごちよう</small> <small>かしかん</small>		



C. 戦場の兵士(関連資料)

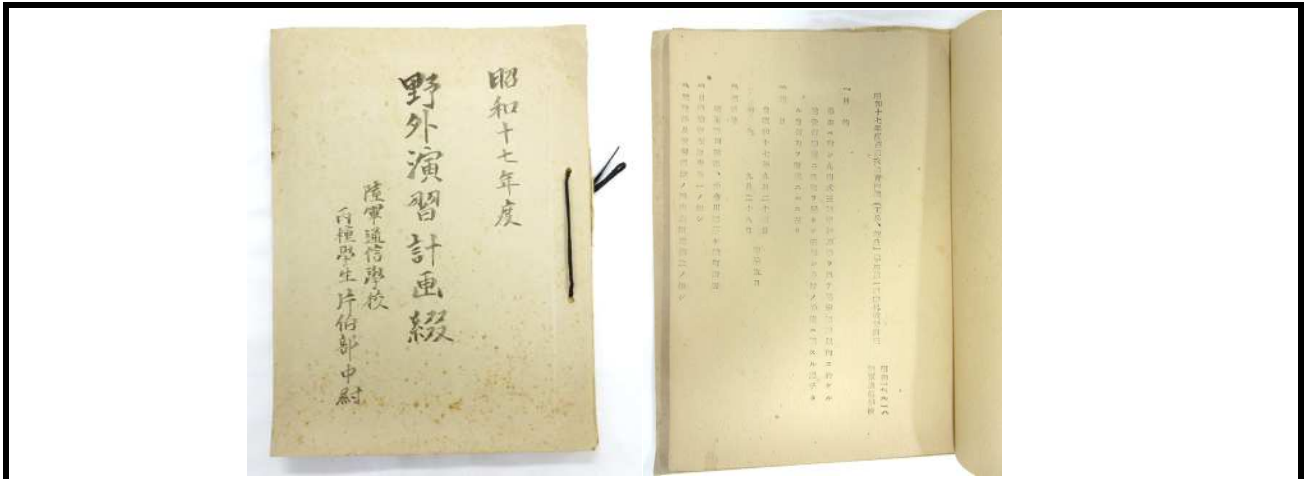


資料名	階級章、善行章 かいきゅうしょう、ぜんこうしょう	寸法(mm)	72×48
解説	<p>規律を重んじる軍隊は、厳格な階級制度によって組織され、軍服の階級章を見れば、一目で階級や担当科などが識別できました。昭和17年(1942年)頃の旧日本海軍では、上から将官、士官、准士官、下士官、兵に大別(詳細には約18階級)されました。</p> <p>また、軍隊に入隊して3年間無事に任務を遂行すれば、「善行章1線」が与えられ、その後は3年ごとに1線ずつ追加されました。</p> <p>*階級章(軍服の右臂上付近に付ける)  「上等兵曹(下士官)」「飛行科」(青色の桜)</p> <p>*善行章(階級章の上に付ける)  「礼装用2線」「夏服用1線」</p>		



資料名	軍隊教練記録ノート ぐんたいきょうれんきろく	寸法(mm)	200×165
解説	<p>表紙に「中江鎮守備隊」とあり、昭和6年(1931年)に始まった満州事変の頃、1月の平均気温が-16℃前後と酷寒の地、朝鮮半島最北端の平安北道慈城郡中江鎮(今の慈江道中江郡)で、国境警備や治安維持などを担当した、歩兵第77連隊所属の兵士が作成した「教練記録ノート」です。</p> <p>この教練記録には、鉄の種類と性質及び加工方法、武器類の各部及び部品の精密図と名称、性能や操作方法などが、詳細にメモされています。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	陸軍通信学校 野外演習計画綴	寸法(mm)	270×195
解説	<p>陸軍通信学校は、旧日本陸軍教育機関の1つで、既成幹部が送受信機器などの操縦技能を鍛錬する実習校です。</p> <p>この「野外演習計画綴」には、工兵・輜重学生を対象に、演習の目的、日時、場所、服装・持ち物、内容、諸注意、通信関係の資料などが記載されています。</p> <p>現在、神奈川県相模原市南区（当時の高座郡大野村）の学校跡地は、相模女子大学などのキャンパスになっています。</p> <p>*工兵 陸軍における戦闘支援兵科の1つで、主に道路や陣地の建設、塹壕掘り、地雷原の敷設などを担当した。</p> <p>*輜重 陸軍における後方支援兵科の1つで、主に武器・弾薬、水・食糧、各種資材などの輸送を担当した。</p>		

C. 戦場の兵士(関連資料)



資料名	「軍隊教育漫画絵葉書」 荒井一壽	寸法(mm)	90×140
解説	<p>軍隊漫画が日本に広く普及したのは、昭和6年（1931年）に開戦した満州事変の頃からで、その中でも軍隊生活などをユーモラスなタッチで描いた作品が、国民に人気を博し、日本の大陸侵攻が本格化する中で、プロパガンダ（宣伝）の役割を果たしました。</p> <p>この「軍隊教育漫画」は、兵営生活での起床、点呼、食事、予行演習、入浴場、消灯などの様子を絵葉書の形式で描き、主にお土産や軍事郵便として利用されました。</p> <p>*兵営 兵隊の居住する所又は兵舎のある一定区域のこと</p> <p>*荒井一壽 昭和初期に一世を風靡した漫画家で、長野や満州での従軍経験を基に絵葉書の形式で軍隊生活を描いた。しかし、その他の詳しい経歴は不明です</p>		